令和３年度　学校評価報告書（実施結果）

県立海老名高等学校

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月24日実施）	総合評価（３月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①身につけさせたい学力を明確化し、「海老名高等学校スタンダート」を構築・実践する。 ②生涯学び続ける力の育成を図るために「主体的・対話的で深い学び」の実現を柱に組織的な授業改善を行う。 ③総合的な探究（学習）の時間の充実に向けて、各学年の実践を通して、探究力・創造力の育成を図る。	①②新型コロナウイルス感染症の予防に留意し、学びの保障から適切な学習支援を行う。「主体的・対話的で深い学び」の組織的な授業改善に取り組む。各教科で身につけさせたい力を明確化し、ICT機器等を利活用し生徒の主体的に学ぶ力を育成する。 第Ⅱ期の指定校事業「新たな学習評価に関する研究」に取り組み３年間の研究成果を総括する。 ③「総合的な探究の時間」では、探究学習を柱とし、各学年でねらいを明確にして取り組む。３年間を見通した探究学習の指導計画・学習内容を明確化し、生徒の思考・判断・表現力を育成する。	①②「主体的・対話的で深い学び」の授業の取組を進める上で、ICT機器（BYOD等）を利活用した授業の実践に、ICT推進チームを中心に全職員が主体的に取り組む。 家庭学習の充実に向け、朝学習の充実や週末課題の実施等を推進する。 「新たな学習評価に関する研究」では、教科会を中心に単元のまとまりによる「振り返りシート」を改善し、研究に係る授業実践を全教員が行う。 ③「総合的な探究の時間」では、探究心と課題解決力の育成をめざした指導計画を作成し実践する。効果的な職員研修を行い、指導力向上を図る。	①②ICT推進チームを中心にICT機器(BYOD等)を利活用した授業や学習支援に、全職員が単元のまとまりごとに1回以上取り組むことができたか。 朝学習・週末課題やClassroomの活用などを行い、家庭学習が促進できたか。 教科会を中心に「新たな学習評価に関する研究」で効果的な「指導と評価の計画」を改善し授業で実践できたか。 ３年間の研究成果をまとめることができたか。 ③「総合的な探究の時間」の探究心と課題解決力の育成を図る指導計画を作成し、授業実践できたか。 職員研修を年２回程度実施できたか。	①来年度からの新学習指導要領実施に備え、本校生に身につけさせたい学力を明確化して「海老名高等学校スタンダート」を再構築した。 ②分散登校の時期以降、欠席者へのオンライン授業配信を行った。また、１年生を中心に週末課題を課し家庭学習を促進した。 ②「振り返りシート」を改善して、単元のねらいを明確にした授業実践を行った。 ②３年間の研究成果を発表会で発表するとともに、報告書にまとめて全県に発信した。 ③「総合的な探究の時間」においては、全学年で探究心と課題解決力の育成を図る指導計画を作成して授業実践を行った。	①「新たな学習評価に関する研究」の成果を踏まえ、新学習指導要領実施に伴う学習評価の改善に向けた取組の継続が必要である。 ②来年度から実施される1人１台端末を活用した学習活動に向けて、ICT機器を利活用した授業実践の更なる研究が求められる。 ③「総合的な探究の時間」に関する職員研修を実施できなかったので、来年度は計画的に実施したい。	①②コロナ禍で精神的なダメージを受けた生徒が多数いたと思います。ＩＣＴの活用はそれは自宅で受けられる授業はとても良いしくみだと感じた。まだ活用方法には広がりがあると感じられるので、先生方の研究もがんばって頂きたい。 欠席者へのオンライン授業配信は「学びの保障」として評価できます。 ③総合的な探究の時間の指導計画は育成する力について学年の系統性が明確になればと思います。	①「海老名高校スタンダード」を生徒に身につけさせたい学力の明確化に役立たせることができた。 ②オンライン授業や週末課題を通して家庭学習を支援することができた。 ③「総合的な探究の時間」の指導計画に基づき適切で効果的な授業実践を行うことができた。	①新学習指導要領による学習活動も考慮しながら「海老名高校スタンダード」の一層の改善を図る。 ②新型コロナ感染症の感染状況を踏まえた柔軟な教育活動を進めていく。 ③「総合的な探究の時間」の実施状況を把握し、適切な指導と支援を行う。
2	生徒指導・支援	①「文武両道」を柱に「自主・自律」の精神を培い「規律ある学校生活」を送り、他者と協働し社会に貢献できる力を育成するために、特別活動の充実、部活動の活性化を図る。 ②生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るために、組織的な教育相談体制を構築し実践する。	①「自主・自律」を柱に規律ある学校生活に主体的に取り組む姿勢を育成する。 学校行事や部活動を通して、生徒が主体的に計画し運営する力を育成する。 新型コロナウイルス感染症予防の意識の向上を図り、自らの健康と安全の意識の醸成を図る。 ②課題を抱えている生徒一人ひとりの状況を全職員で共有し、理解を深め、適切にケース会議を開催するなど組織的に支援する。教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー等と連携し教育相談の充実を図る。	①基本的な生活習慣を確立するために各学年で情報を共有し、効果的な生徒支援を行う。 タイムマネジメントやSNSの利用などHRや学年集会等適切な機会を捉えて、リーフレット等を活用し生徒の規範意識の醸成を図る。 交通安全教室・自転車点検等を定期的に実施する。 新型コロナウイルス感染症の予防に向け、HRでの講話や日々の声かけを積極的に行う。 ②教育相談システムを活かして、ケース会議を適切な時機に行い、教育相談センターを中心にして、スクールカウンセラーや外部機関と連携し組織的に生徒支援に取り組む。	①基本的な生活習慣を確立するため学年会等で情報を共有できたか。 昨年度より生徒の遅刻の回数が減少したか。 生徒が学校行事等で、主体的に協力し活動することができたか。 交通安全についての知識とマナー、SNSに対する理解等を身につけさせることができたか。 新型コロナウイルス感染症の予防に関する意識の醸成を図ることができたか。 ②ケース会議を積極的に行い昨年度よりも取組をすすめることができたか。 外部機関等と連携し課題を抱える生徒の支援に組織的に取り組むことができたか。	①新型コロナウィルス感染症予防の観点から生徒の自主的な活動を制限せざるを得ない場面も多々あったが、その中でも生徒は学校行事で何ができるかをともに考え主体的に協力して最大限の活動を行うことができた。 学年会等で情報を共有することはできたが、遅刻の回数が減少しないなど効果的な指導には課題が残る。交通安全やSNSに対する理解については、機会があるごとに注意喚起を行ってきたが、身についていない生徒も若干いる。 新型コロナウイルス感染症の予防に関する生徒の意識は、継続的に指導を行い高めることができた。 ②課題を抱える生徒が増加している中、その支援に課題もあり、更なる組織的な取組を進める必要がある	①現在の状況がしばらく続くことを想定し、その中でもできる活動を模索していく必要がある。部活動や皐月祭等において感染拡大防止の観点から活動方法や実施内容をあらかじめ検討していく。 情報共有が効果的な指導につながるように、組織的な指導の強化を図る。生徒の自転車事故やSNSに関わるトラブルも増加傾向にあり、校内での組織的な取組を充実させるとともに、PTAや地域との連携も進めていく。新型コロナウイルス感染症の予防については、昼食時の默食がしっかりできているなど生徒の意識は高まっているが、健康観察の重要性に対する意識が低い生徒もいるので、引き続き粘り強く指導していく。 ②課題を抱える生徒に対する適切な支援を行うために、本年度達成できなかった組織的な対応の要である教育相談システムの構築を行う。	①基本的生活習慣等への取り組みの継続をお願いします。 ②課題を抱える生徒を見つけるための方策を検討してほしい。 コロナ禍で様々な制限がなされる中、工夫して生徒主体の教育活動が実施できたことは高く評価します。今後も安心・安全を確保しつつ、創意工夫ある取組を期待いたします。	①新型コロナウィルス感染予防に留意しながら、部活動・学校行事等その時の状況に合わせて実施することができた。現状より広げられるもの、狭めなければならないものを精査する必要がある。 新型コロナウイルス感染症予防について、昼食時の默食は、組織的な指導を行い成果を上げている。また、遅刻防止など基本的生活習慣の確立や交通安全の意識付け、SNSに関するトラブル防止など課題を残している事項は、組織的な指導を強化するなど校内での指導のあり方を改善していく必要がある。 ②様々な課題を抱える生徒について、丁寧な対応はなされているが、指導方法の改善や工夫を実施し、よりよい解決に向けての方策を見出す必要がある。	①感染拡大防止の観点と熱中症対策の観点から屋外でのマスクの着用についてのルール作りを行っていきたい。 基本的生活習慣の確立や交通安全への意識付け、SNSに関するトラブル防止についても、新型コロナウイルス感染症予防と同様に、全職員共通理解の下、学校として組織的な指導を強化していく。 ②様々な課題を抱える生徒については、職員間での情報共有を密にすることや組織的な対応により、該当生徒の早期発見と対応が可能となる体制を構築していく。

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月24日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現に向けて、３年間を見通したキャリア教育計画を構築し、支援体制の充実を図る。 ②生徒の第一志望を達成するために組織的に取り組み、より高い進路実現を図る。	①生徒一人ひとりの自己実現に向けて、生徒の生き方・あり方を考えさせる。卒業後の進路に向けて、３年間の効果的なキャリア教育を計画し実践する。 ②高大接続改革等の情勢を見通して、的確な情報収集を行い、丁寧な進路指導を実践する。生徒の第一志望を尊重した進路実現にむけ組織的に取り組み、支援する。	①３年間の段階的で継続的なキャリア教育を計画し実践する。自己の生き方・あり方を考える機会として、LHRや「総合的な探究の時間」を活用する。 ②大学入学共通テスト等上級学校への進路に向け、生徒に的確に情報を発信し、第１志望の進路実現を図る。 面談やガイダンス等を活用し、組織的に計画的に生徒を支援する。 進路だよりを各学年月１回程度発行する。 各種模擬試験や定期テストをもとに生徒一人ひとりの状況を把握し進路支援を行う。	①３年間を見通したキャリア教育計画を各学年で作成し、適切な時機に実践できたか。 LHRや「総合的な探究の時間」等を活用し、生徒の自己実現への意識の醸成を図れたか。 ②３学年の生徒の第１志望の進路実現を60％程度達成できたか。 定期的に面談やガイダンスを行い、進路支援に役立てられたか。 進路だよりを各学年月１回程度発行できたか。 各種模擬試験や定期テストのデータを活用し生徒一人ひとりの状況にそった進路支援ができたか。	①令和４年度発行の「進路のしおり」に３年間を見通したキャリア教育計画については、 わかりやすく記載しようと取り組みを進めている。 ②大学入学共通テスト等上級学校への進路に向け、生徒に的確に情報を発信した。 進路だよりについては全学年で発行できた。 各種模擬試験をもとに生徒一人ひとりの状況を把握し進路支援を行った。	①自己の生き方・あり方を考える機会は増加していないため、キャリアパスポートを活用し自己実現について考えさせる機会をより効果的に持てるよう引き続き検討していく。 ②じっくり考えるタイプの生徒が多くみられるため、少しずつ早いタイミングで情報発信するほうがよい場面も見られた。今後の検討としたい。進路支援に模擬試験のデータを活用したが、これらを定期テスト結果等とも関連付けて支援できるとよいと考える。	①キャリアパスポートの効果的な活用について期待します。 一人ひとりに丁寧に進路支援を実施していただいたことを評価いたします。 ②現役生　合格状況の表から判断して、取り組みが実を結んでいるものと思われる。	①「進路のしおり」の全体的な見直しを行い、わかりやすくすることができた。 ②進路情報をより多く伝えることを行った。特に学年ごとの集会を充実させて、意識向上と情報発信に努めた。	①②より充実した情報発信と意識の向上をできるようにするため、進路の集会を定期的に行う。 卒業生や大学関係者に講演を行ってもらい、今の大学の様子を聞き、より充実した進路活動につなげていきたい。
４	地域等との協働	①コミュニティ・スクールを円滑に推進する。学校運営協議会を柱とし地域連携を進め地域貢献を図り、「地域に信頼される学校づくり」に取り組む。 ②地域に根ざした環境教育を推進する。	①コミュニティ・スクールを計画的に効率的に推進する。 学校運営協議会を定期的に開催し効果的な学校経営を推進する。 新型コロナウイルス感染症に留意して、生徒が地域行事やボランティア活動などに参加し、地域貢献活動を実施する。 ②地域や外部機関との連携を図り、本校の特色である環境教育の充実を図る。	①学校運営協議会を年３回程度開催する。地域連携部会等を計画的に開催する。 PTAと連携・協働し学校行事や日々の教育活動を円滑に進める。 新型コロナウイルス感染症の予防に留意しつつ地域貢献活動を実施する。 ②学校運営協議会で実践に向け検討し、外部機関と連携した活動を行う。	①学校運営協議会を年３回程度開催できたか。 地域連携部会を開き、新型コロナウイルス感染症の中でボランティア活動や地域貢献活動が実施できたか。 昨年度よりPTAと連携・協働し活動することができたか。 ②環境教育で地域や外部機関と連携した活動ができたか。	①今年度は、感染防止対策を講じながら、地域貢献活動の一環である地域清掃を実施することができた。また、自治会等の地域の方々から、来年度参加させていただけるような企画のご提案をいただくことができた。次年度は、少人数での地域貢献活動も実施することができそうである。 ②学校運営協議会は、感染防止対策を講じながら計画的に実施することができた。	①自治会等の地域の方々から、参加可能な企画をご提案いただけるので、地域清掃だけではなく、小単位での参加をこまめにしていけるようこまめに連携を取っていく必要がある。 ②学校運営協議会を実施するにあたり、幅広い実施形態が実現できるよう、ハイブリッド型などの方法を模索し、取り入れていく必要がある。委員の方々のご意見をもとに、実現可能なことを検討し、地域等とのよりよい連携・協働を図るよう努めていく必要がある。	①コロナ禍で制限のある中、さまざまの工夫により取組いただいたことに感謝します。 コロナ禍、実行は難しそうですがもし「収束宣言」されれば地元の各種行事に参加、協力をお願いしたい。	①感染防止対策を講じながら、地域貢献活動の一環である地域清掃を実施することができた。感染防止対策を講じながら、年に一度の清掃活動だけではなく、地域の催し物等にも参加させていただけるよう、さらなる地域連携が今後の課題である。 ②１回目の学校運営協議会を対面で実施することができたが、対面での開催が難しい場合は、ハイブリッド型での学校運営協議会の開催が今後の課題である。	①地域の方々からいただくお知らせ等を各部活動等に知らせるとともに、希望団体を募り、積極的に地域活動に参加する。 ②ハイブリッド型開催をするうえで、協議会委員の方々のインターネット環境等の調査を事前におこなうなど対策を講じる。
５	学校管理 学校運営	①安全・安心な教育環境の実現を図る。 ②確かな防災教育の推進と防災意識の向上を図る。 ③教職員の働き方改革を推進し効率的で効果的に業務を遂行する。あわせて、教育公務員としての自覚をもち責任ある行動を行い、事故・不祥事防止に取り組む。	①耐震工事を円滑に進めるために計画的に準備する。仮設校舎への引っ越し、各種行事の調整等適切に進める。 ②新型コロナウイルス感染症に係る様々な課題の解決に取り組む。 避難訓練やDIG学習などで、生徒主体の防災教育を推進する。 ③教職員の多忙化の解消に向けて効率的な業務の精選等を行う。 入学者選抜や成績処理等では教育公務員としての責任を強く持ち、事故・不祥事防止に取り組む。	①耐震工事に向けて学校管理グループを中心に事務室と連携し組織的に取り組む。 仮設校舎への引っ越しの計画では、学校行事を鑑み、的確に円滑に業務を遂行する。 ②新型コロナウイルス感染症に係る様々な課題の解決に全職員で取り組む。防災教育を推進し。校舎内の整備も適宜行う。 ③デジタル化を進め、効率的な業務の精選に取り組む。 入学者選抜では、事故ゼロを目標に、強く責任感を持ち適切に業務を遂行する。	①耐震工事に向けての準備等で、教職員と事務室が連携・協働し円滑に適切に進めることができたか。 ②新型コロナウイルスに係る様々な課題に全職員で取り組むことができたか。 生徒・職員が健康に安全に過ごせる環境づくりを行ったか。 避難訓練やDIG学習など計画的に実施することができたか。 ③デジタル化を進め、業務の精選等ができたか。 入学者選抜、成績処理等をはじめ、事故ゼロ、不祥事防止ができたか。	①仮設校舎への引越しでは、グループ全員で組織的に取組み、学校の中心として、事故なく安全に行うことができた。 ②新型コロナウイルス感染症に対応する問題では、マニュアルを作成し率先して行うことができた。通常の避難訓練に加え、仮設校舎での避難訓練を行い、生徒への防災に関する意識を高めることができた。 ③グループ員で問題点を共有し、業務の精選に努めている。不祥事防止に関しては、計画的な職員研修を通して、教職員の意識を高めることができた。	①仮設校舎の様々な問題に対してグループ員でコミュニケーションをとり、解決を目指す。次年度末の仮設校舎からの引越し業務を教職員や事務と協力しながら進める。 ②新型コロナウイルス感染症の諸問題に対し臨機応変に対応する。防災訓練は、地域との関わりも意識して取り組む。 ③デジタル化を学校全体で行うことにより他グループとの連携を深める。不祥事防止に関しては、職員の危機意識を醸成できるような研修を工夫する。	①仮設校舎は換気も十分にできてよいが、運動場が狭くなったので部活動がどうなったかが心配に思う。 仮設校舎での学校管理運営には課題もあろうかとは存じますが、特に防災面も含め、安心・安全を第一にお願いしたいところです。 ②大規模災害時に、帰宅が困難になった教職員や生徒が、一時的に校内で過ごすことができるような備蓄は整備されているか。	①仮設校舎への引越は全職員の協力の下、円滑に進めた。生徒の昇降口が登下校時間に密になる課題には一足制にして対応した。他にも問題が出た場合はその都度柔軟に対応し解決策を探った。 ②新型コロナウイルス感染症の諸問題への対処については、生徒・職員の意識向上に努め、PTAや保護者の協力の下に取り組むことができた。防災訓練については、今後、地域との協働も意識して取り組む。 ③不祥事防止については、業務に適切に取り組むことができた。不祥事を起こすと考えられる要因を取り除いていく取組を組織的に行うと効果が高いと考えられる。	①仮設校舎での生活は残り１年間となるが、よりよい教育環境を整備するために予期せぬ問題が生じたときも、引き続き柔軟に対応できるよう努めていく。 ②新型コロナウイルス感染症の諸問題への対処は、生徒・職員の健康を第一に考え、今までの実績も踏まえ、よりよい方策を考えスピード感をもって取り組んでいく。防災訓練は地域との協働のあり方を探り実施する。 ③不祥事防止研修については、個々の職員が自分事として考えられるよう内容や実施方法の更なる充実を図り、事故・不祥事防止を徹底する。